

鳥取県の推計人口（年報）

【令和3年10月～令和4年9月】

令和4年12月1日公表

鳥取県令和新時代創造本部統計課

目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の推計人口	
1 推計人口と世帯数	3
2 年齢3区分別人口	4
II 人口動態	
1 概況	7
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	7
(2) 月別自然動態	8
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	8
(2) 月別社会動態	9
(3) 都道府県別(外国を含む)、男女別社会動態	9
(4) ブロック別の県外転入・転出	11
(5) 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数	11
(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態	12
III 市町村別推計人口	
1 市町村別の推計人口	13
2 年齢3区分別人口	
(1) 年少人口	14
(2) 生産年齢人口	14
(3) 老年人口	14
IV 市町村人口動態	
1 人口増減	15
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	16
(2) 月別自然動態	17
(3) 男女別自然動態	17
3 社会動態	
(1) 市町村別社会動態	18
(2) 県内移動	19
(3) 県外転入・県外転出	20
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出	21
＜参考＞外国人(国籍不詳を含む)の推計人口	25

用語の説明

1 人口性比

女性を100としたときの男性の割合

2 年少人口

0歳～14歳の人口をいう。

3 生産年齢人口

15歳～64歳の人口をいう。

4 老年人口

65歳以上の人口をいう。

5 年少人口指数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

6 老年人口指数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

7 従属人口指数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

8 老年化指数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

9 動態

- (1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。
- (2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。
- (3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

10 移動

- (1) 移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。
- (2) 実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。
- (3) 県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。
- (4) 県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。
- (5) 県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。
- (6) 県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。
- (7) 転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

11 出生率及び死亡率

- (1) 出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。
- (2) 死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 2 移動者の年齢

令和4年10月1日現在の満年齢による。

1 3 自然増減数

出生者数から死亡者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

1 4 自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 5 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

1 6 社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 7 ブロック別区分

北海道…北海道

東 北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関 東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中 部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近 畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中 国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四 国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九 州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

1 8 地域別区分

東 部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中 部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西 部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

1 9 市郡別

市 部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡 部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利 用 上 の 注 意

- 1 鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。なお、県内移動については、転入日をもって転出日としている。
- 2 推計人口とは、令和2年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。
- 3 平成27年国勢調査国勢調査結果に毎月の転入者等の届出数を加減した令和2年10月1日現在の推計人口及び世帯数と、令和2年国勢調査結果に差が生じているので、平成27年国勢調査結果までさかのぼり、平成27年11月以降の推計値を補正している。
- 4 人口及び世帯の移動数は、令和3年10月から令和4年9月までの年間数値であり、市町村表記は令和4年9月末現在のものにて記載している。

調査結果の概要

I 鳥取県の推計人口

1 推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は543,615人で、前年に比べ4,947人減少し、平成8年以降27年連続の減少となった。

令和4年10月1日現在の鳥取県の推計人口は543,615人で、前年に比べ4,947人減少した。

昭和50年(581,311人)以降の推移をみると、昭和63年の616,371人をピークに減少傾向となり、平成6年及び7年に増加したものの、平成8年以降は27年連続の減少となった。この間、平成20年に60万人台、平成22年に59万人台、平成25年に58万人台、平成28年に57万人台を割り、平成29年から平成30年は56万人台で推移し、令和元年では56万人台、令和3年では55万人台を割った。

男女別人口をみると、男性260,026人、女性283,589人で、人口性比は91.7であった。

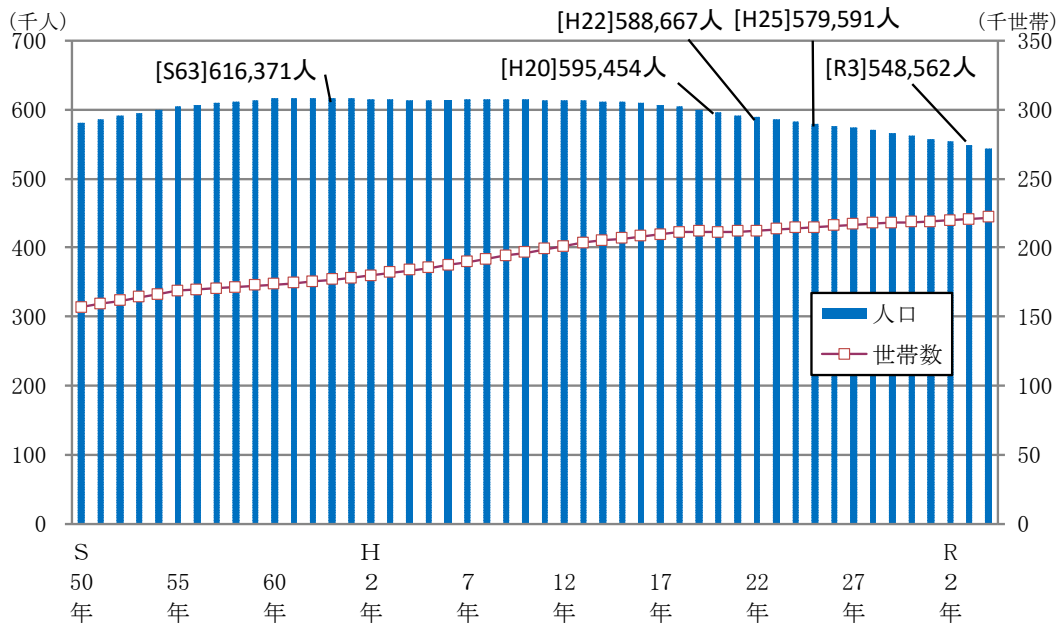
外国人の推計人口(国籍不詳を含む。以下同じ。)は9,716人(県の推計人口に占める割合は1.8%)で前年に比べ486人増加し、2年ぶりの増加となった。男女別に見ると、男性4,255人、女性5,461人で、人口性比は77.9であった。

世帯数は、221,648世帯で、この1年間で955世帯増加した。

昭和50年(156,826世帯)以降増加が続き、平成12年では20万世帯を超え、令和4年では過去最大となった。1世帯当たりの人員は2.45で減少が続いている。

(図1、表1、表2、統計表第1表)

図1 人口と世帯数の推移



注1)各年の人口は10月1日現在の人口による。

注2)表示年は国勢調査実施年で国勢調査人口、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表1 推計人口と世帯数(過去5年間の推移)

年	人 口			対 前 年				人口性比	世帯数	1世帯当 たりの人
	総数	男	女	総数	男	女	率			
H30年	7,858	3,308	4,550	865	450	415	12.37	72.7	218,280	2.57
	561,777	268,353	293,424	-4,296	-2,008	-2,288	-0.76	91.5		
R元年	8,864	3,757	5,107	1,006	449	557	12.80	73.6	218,841	2.55
	557,343	266,334	291,009	-4,434	-2,019	-2,415	-0.79	91.5		
R2年	9,428	4,045	5,383	564	288	276	6.36	75.1	219,742	2.52
	553,407	264,432	288,975	-3,936	-1,902	-2,034	-0.71	91.5		
R3年	9,230	3,973	5,257	-198	-72	-126	-2.10	75.6	220,693	2.49
	548,562	262,227	286,335	-4,845	-2,205	-2,640	-0.88	91.6		
R4年	9,716	4,255	5,461	486	282	204	5.27	77.9	221,648	2.45
	543,615	260,026	283,589	-4,947	-2,201	-2,746	-0.90	91.7		

注1) 上段は外国人で内数

注2) 外国人は国籍不詳を含む。

2 年齢3区分別人口

年齢3区分別の構成割合は、年少人口は12.3%、生産年齢人口は54.4%で、ともに過去最低、老年人口は33.3%で過去最高となった。

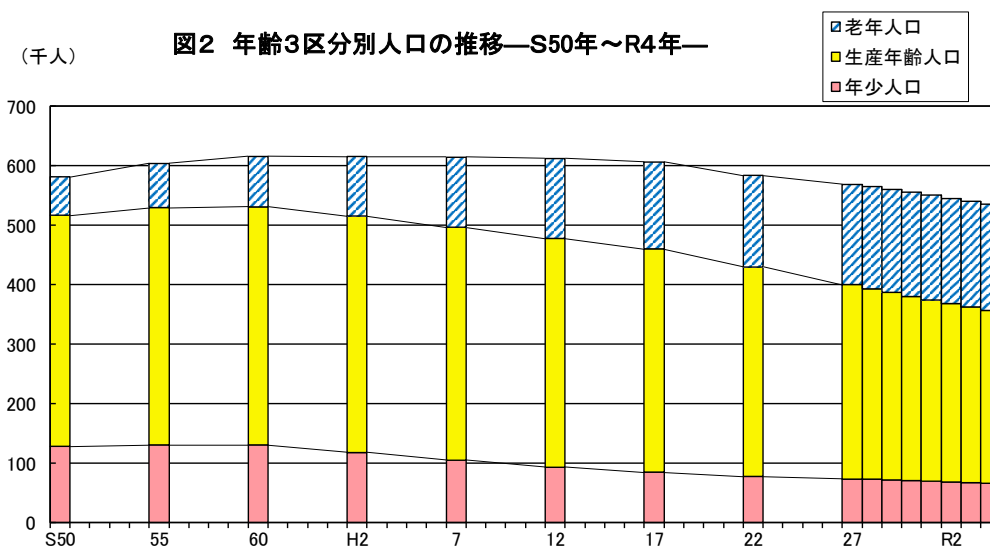
年齢3区分別にみると、年少人口は65,923人で前年（令和3年10月1日現在）に比べ1,165人減少、生産年齢人口は291,508人で4,023人減少、老年人口は178,155人で241人増加した。（年齢3区分人口に年齢不詳は含まない。以下同じ。）

昭和50年以降の推移をみると、年少人口は昭和60年の130,668人をピークに減少となり、平成12年では10万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は昭和60年の400,717人まで増加を続けていたが、それ以降減少が続いている。老年人口は増加が続いており、平成7年に11万人台、平成28年からは17万人台となった。

人口構成割合を前年と比べると、年少人口は12.3%で0.1ポイント低下し、生産年齢人口は54.4%で0.3ポイント低下し、ともに過去最低となった。老年人口は33.3%で0.4ポイント上昇し、過去最高となった。

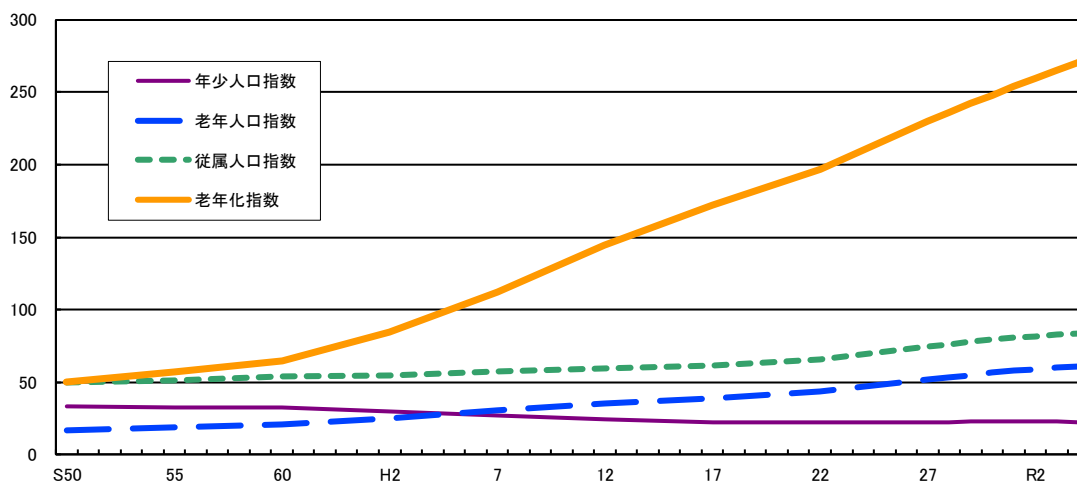
年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は83.7で0.8ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は22.6で0.1ポイント低下、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は61.1で0.9ポイント上昇した。また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は270.2で5.0ポイント上昇し、老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は過去最高となった。

（図2、図3、図4-1、図4-2、表2、表3、統計表第1表）



注) 表示年は国勢調査実施年で国勢調査値、その他の年は国勢調査を基準として推計したものである。

図3 年齢構成指数の推移—S50年～R4年



注) 表示年は国勢調査実施年で国勢調査値、その他の年は国勢調査を基準として推計したものである。

図4-1 人口ピラミッド

県全体 543,615人

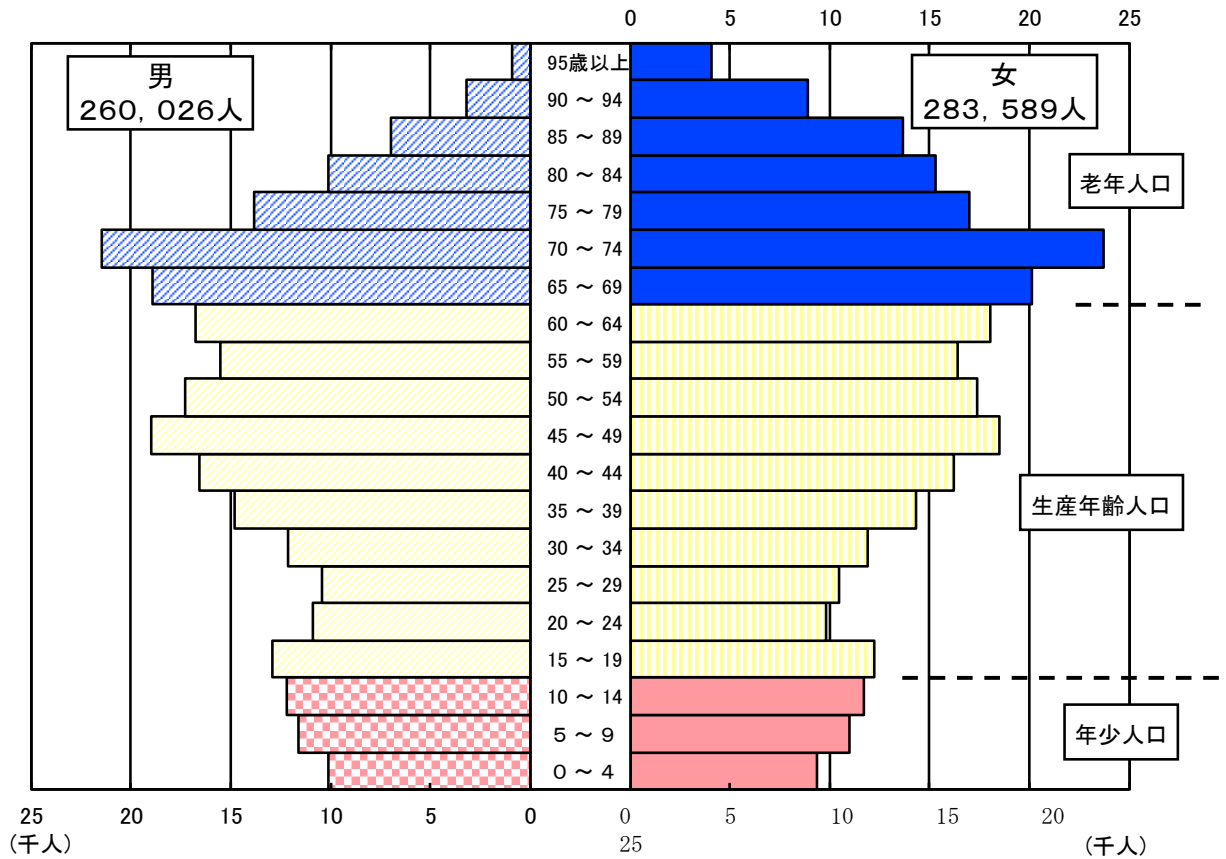
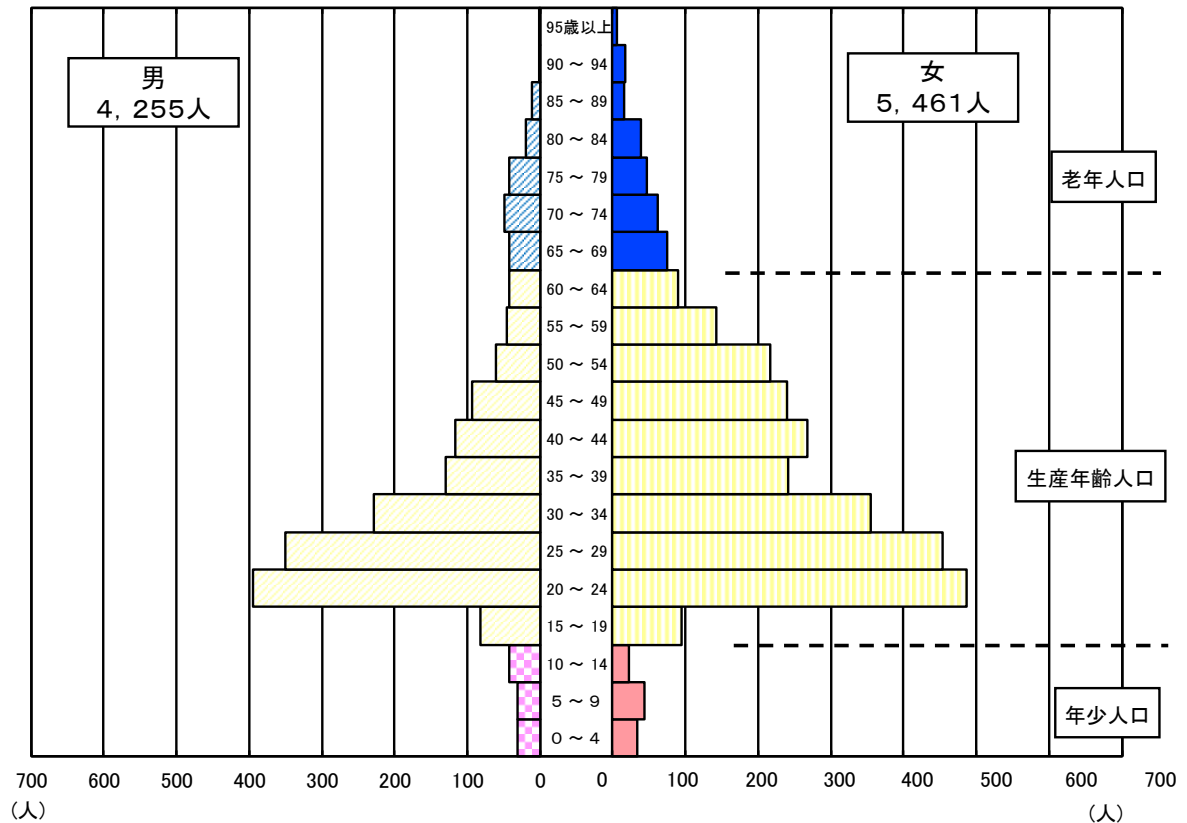


図4-2 人口ピラミッド(外国人)

県全体 9,716人



注) 外国人は国籍不詳を含む

表2 年齢5歳階級別人口

(単位:人)

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	543,615	260,026	283,589	91.7	9,716	4,255	5,461	77.9
0～4歳	19,441	10,085	9,356	107.8	65	31	34	91.2
5～9	22,574	11,605	10,969	105.8	74	31	43	72.1
10～14	23,908	12,175	11,733	103.8	65	42	23	182.6
15～19	25,108	12,891	12,217	105.5	176	82	94	87.2
20～24	20,678	10,872	9,806	110.9	881	394	487	80.9
25～29	20,900	10,456	10,444	100.1	805	351	454	77.3
30～34	24,005	12,116	11,889	101.9	583	228	355	64.2
35～39	29,137	14,786	14,351	103.0	371	129	242	53.3
40～44	32,795	16,574	16,221	102.2	383	116	267	43.4
45～49	37,486	18,981	18,505	102.6	333	93	240	38.8
50～54	34,616	17,257	17,359	99.4	276	60	216	27.8
55～59	31,969	15,544	16,425	94.6	188	45	143	31.5
60～64	34,814	16,782	18,032	93.1	131	42	89	47.2
65～69	39,042	18,927	20,115	94.1	117	42	75	56.0
70～74	45,212	21,490	23,722	90.6	111	49	62	79.0
75～79	30,800	13,834	16,966	81.5	89	42	47	89.4
80～84	25,427	10,116	15,311	66.1	57	19	38	50.0
85～89	20,639	7,002	13,637	51.3	27	11	16	68.8
90～94	12,046	3,167	8,879	35.7	18	1	17	5.9
95歳以上	4,989	893	4,096	21.8	7	1	6	16.7
不詳	8,029	4,473	3,556	125.8	4,959	2,446	2,513	97.3

注1) 外国人は国籍不詳を含む。

注2) 各歳別に年齢不詳は含まない。

表3 年齢3区分別人口

(単位:人、%)

年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口(0～14歳)	65,923	12.3	204	4.3
生産年齢人口(15～64歳)	291,508	54.4	4,127	86.8
老年人口(65歳以上)	178,155	33.3	426	9.0
うち75歳以上	93,901	17.5	198	4.2

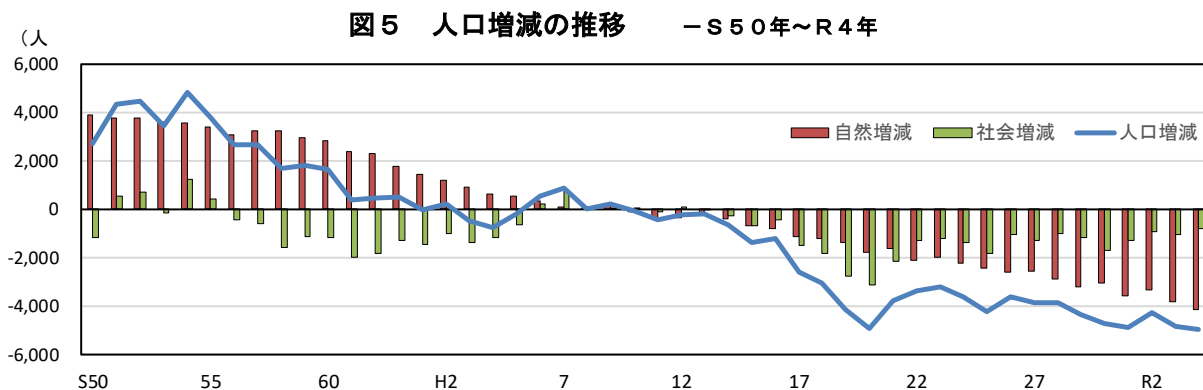
注) 割合は、小数第二位以下を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合がある。

II 人口動態

1 概況

1年間の人口動態は、自然増減、社会増減ともに減少し、減少幅は前年に比べ102人拡大した。

令和4年（令和3年10月～令和4年9月）の1年間の人口動態をみると、自然増減は4,155人の減少、社会増減は792人の減少、合計4,947人の減少となり、減少幅は前年に比べ102人拡大した。（図5、統計表第3表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

2 自然動態

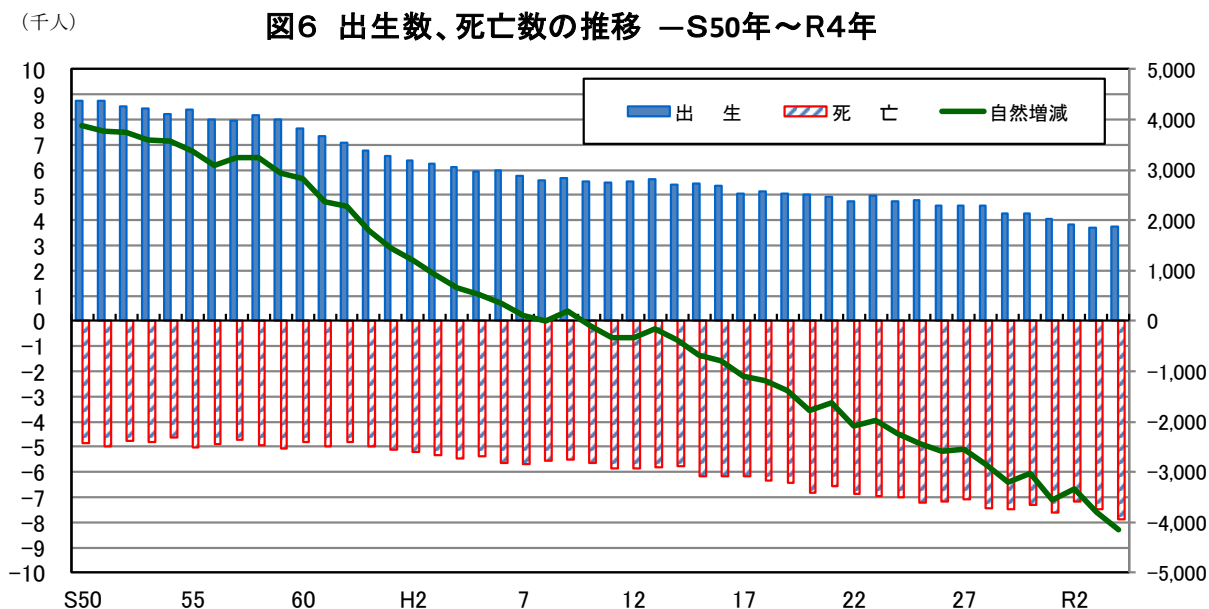
(1) 自然動態の推移

自然増減は、4,155人減少し、25年連続の減少となった。

出生数は昭和50年（8,735人）以降減少傾向となり、昭和63年からは6,000人台、平成5年からは5,000人台、平成21年からは4,000人台、令和2年からは3,000人台となり、令和4年は3,736人で前年に比べ38人増加した。

死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後を推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成15年からは6,000人台、平成25年からは7,000人台となり、令和4年は7,891人で前年に比べ398人増加した。

自然増減は4,155人の減少となり、減少幅は前年に比べ360人拡大し、25年連続の減少となった。（図6、統計表第3表）



注)各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

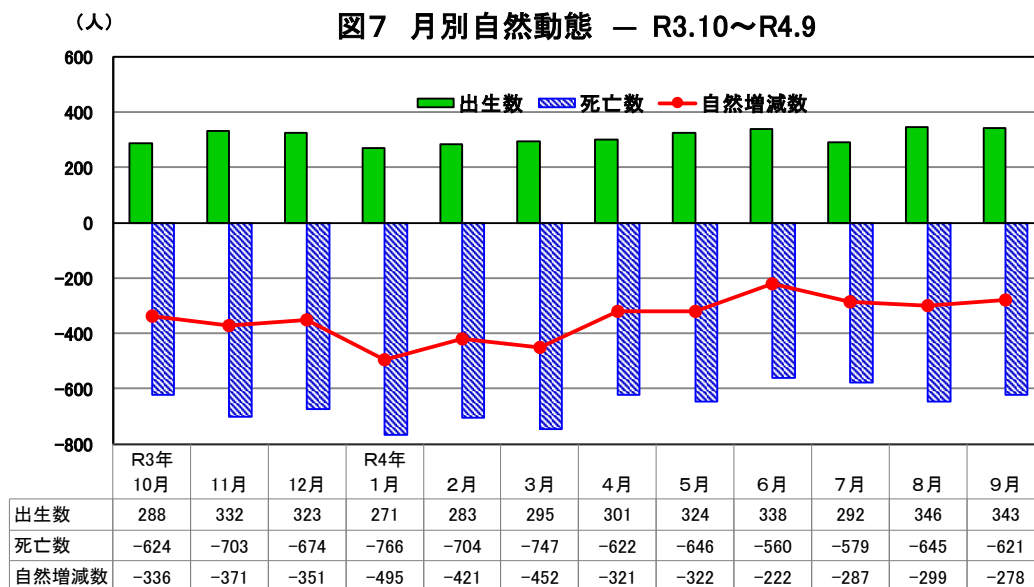
(2) 月別自然動態

自然増減はすべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い。

月別にみると、出生数は令和4年8月の346人（出生総数に占める割合9.3%）が最も多く、次いで令和4年9月の343人（同9.2%）、令和4年6月の338人（同9.0%）であった。

死亡数は令和4年1月の766人（死亡総数に占める割合9.7%）が最も多く、次いで令和4年3月の747人（同9.5%）、令和4年2月の704人（同8.9%）であった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は令和4年1月の495人が最も多かった。（図7、統計表第4表）



3 社会動態

(1) 社会動態の推移

社会増減は、792人減少し、22年連続の減少となった。

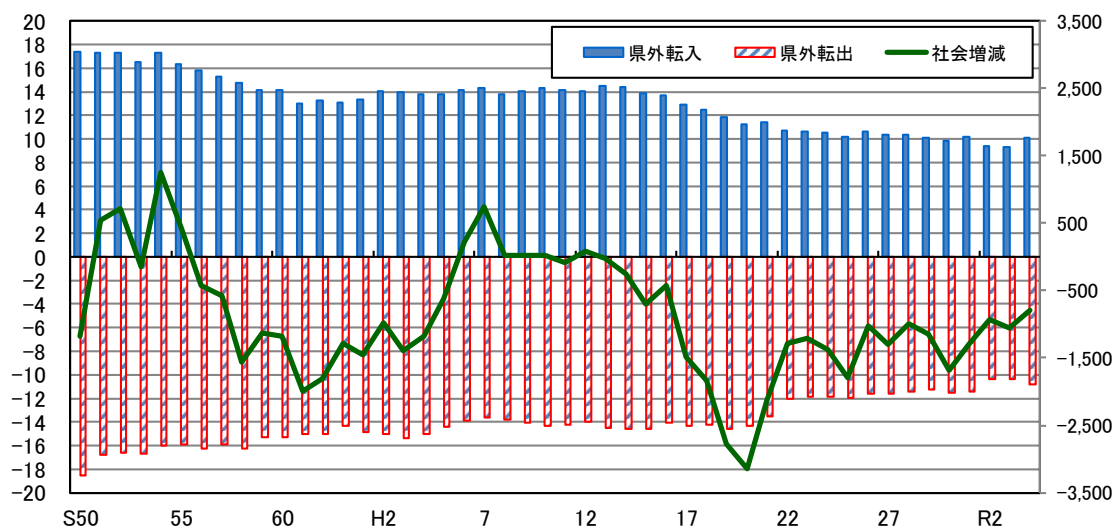
令和4年（令和3年10月～令和4年9月）の県外転入者は10,060人、県外転出者は10,852人で社会増減は792人減少した。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は5,583人で実移動者総数は26,495人であった。

前年と比べると、県外転入者が726人増加、県外転出者が468人増加し、社会増減の減少数が258人縮小した。また、県内移動者が116人減少し、実移動者総数が1,078人増加した。

社会動態の推移をみると、昭和50年以降転入・転出ともに減少傾向となり、社会増減数は平成13年以降22年連続で減少した。（図8、統計表第3表、統計表第7表）

(千人)

図8 県外転出入者数の推移 — S50年~R4年



注) 各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 月別社会動態

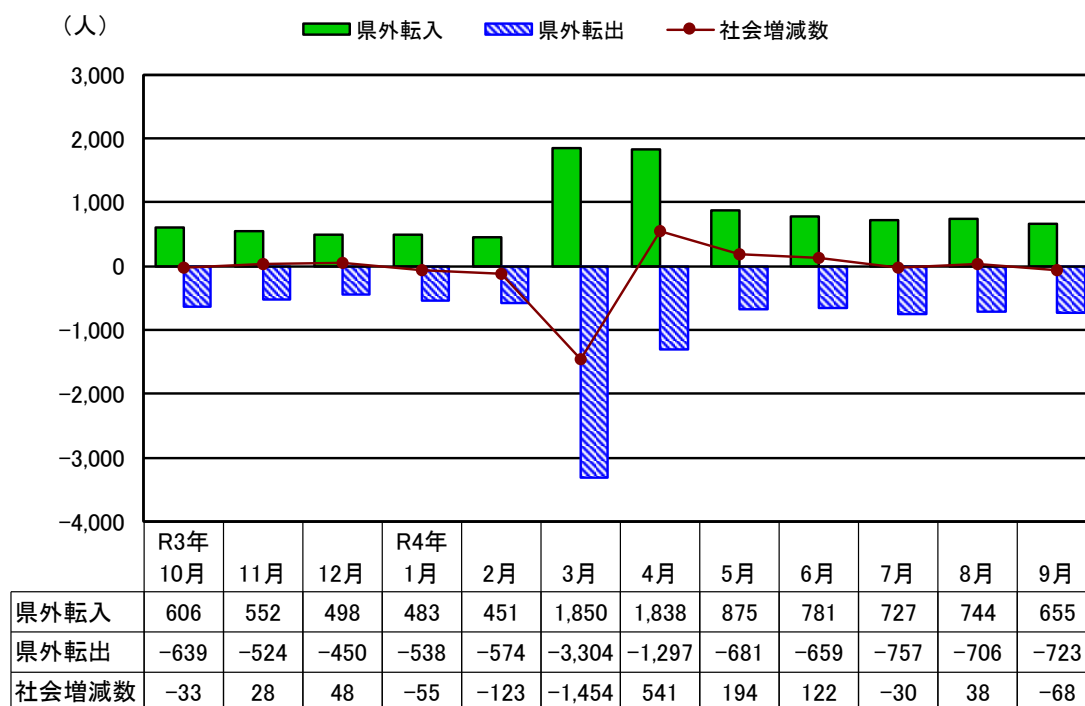
3月及び4月の2か月間で、年間県外移動者総数の39.6%を占める。

月別にみると、県外転入者は令和4年3月の1,850人（県外転入者総数に占める割合18.4%）が最も多く、次いで令和4年4月の1,838人（同18.3%）、令和4年5月の875人（同8.7%）であった。

県外転出者は令和4年3月の3,304人（県外転出者総数に占める割合30.4%）が最も多く、次いで令和4年4月の1,297人（同12.0%）、令和4年7月の757人（同7.0%）であった。

この結果、令和4年4月が541人増加し、令和4年3月が1,454人減少し、この2か月間で年間県外移動者総数の39.6%を占めている。（図9、統計表第6表）

図9 月別県外転出入者数 — R3.10月～R4.9月



(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態

県外転入者数は外国の1,257人、県外転出者数は大阪府の1,168人が最も多い。

都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は外国の1,257人（男性595人、女性662人）が最も多く、次いで島根県の1,207人（男性620人、女性587人）、大阪府の1,023人（男性539人、女性484人）であった。

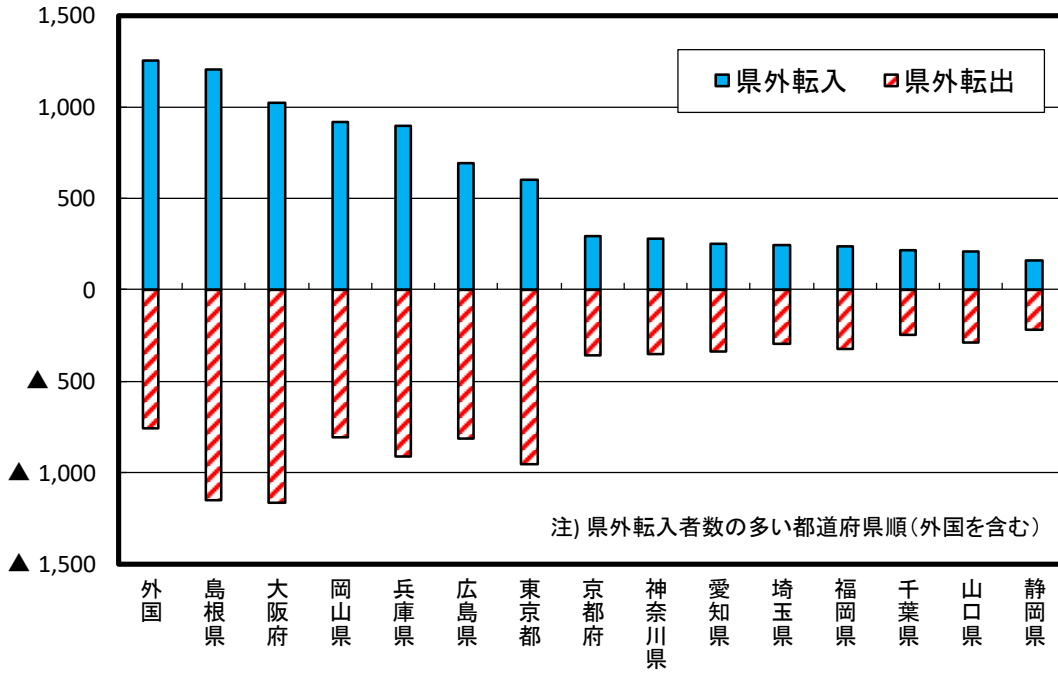
県外転出者は大阪府の1,168人（男性584人、女性584人）が最も多く、次いで島根県の1,152人（男性635人、女性517人）、東京都の956人（男性509人、女性447人）であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県の620人が最も多く、次いで外国の595人、大阪府の539人であり、県外転出者は島根県の635人が最も多く、次いで大阪府の584人、東京都の509人であった。

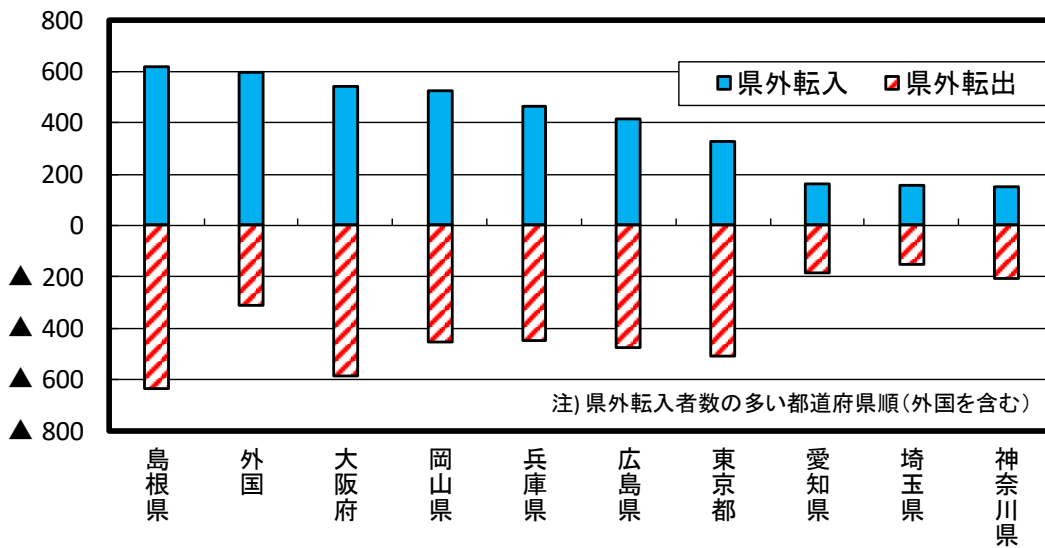
女性の県外転入者は外国の662人が最も多く、次いで島根県の587人、大阪府の484人であり、県外転出者は大阪府の584人が最も多く、次いで島根県の517人、兵庫県の466人であった。

（図10-1、図10-2、図10-3、統計表第14表）

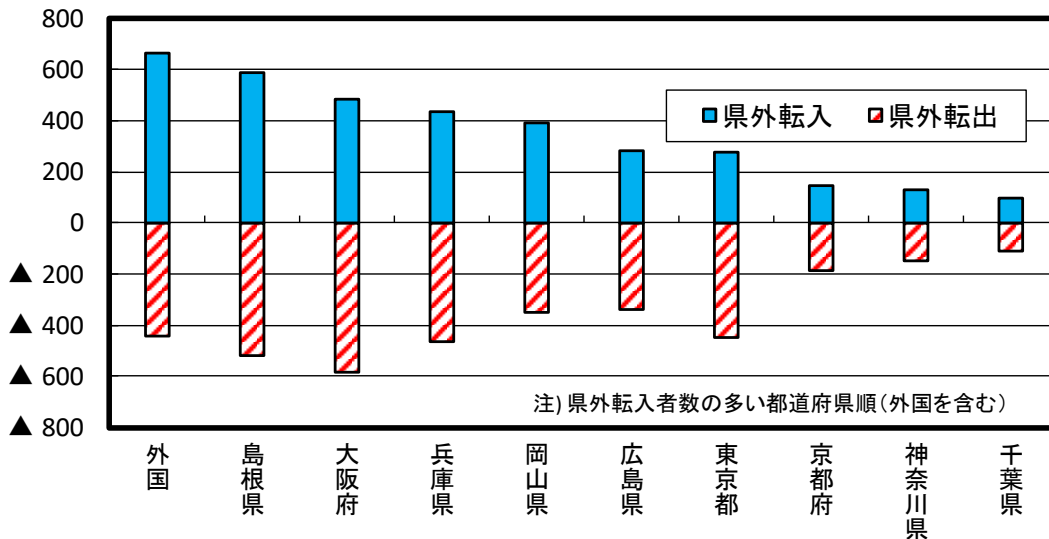
(人) 図10-1 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位15都道府県(総数)



(人) 図10-2 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(男)



(人) 図10-3 従前の住所地及び転出地の都道府県別転入・転出者数上位10都道府県(女)



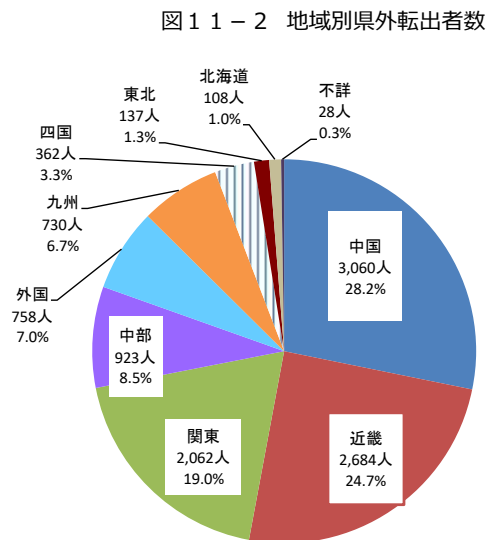
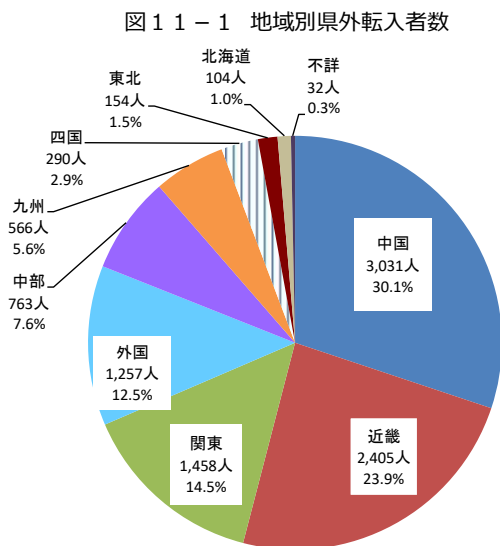
(4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックの3,031人（男性1,694人、女性1,337人）が最も多く、次いで近畿ブロックの2,405人（男性1,254人、女性1,151人）、関東の1,458人（男性812人、女性646人）であった。

県外転出者は中国ブロックの3,060人（男性1,743人、女性1,317人）が最も多く、次いで近畿ブロックの2,684人（男性1,326人、女性1,358人）、関東ブロックの2,062人（男性1,112人、女性950人）であった。

(図11-1、図11-2、統計表第14表)



注) 全国地域区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

- 北海道: 北海道
- 東北: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
- 関東: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
- 中部: 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
- 近畿: 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
- 中国: 島根、岡山、広島、山口
- 四国: 徳島、香川、愛媛、高知
- 九州: 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数

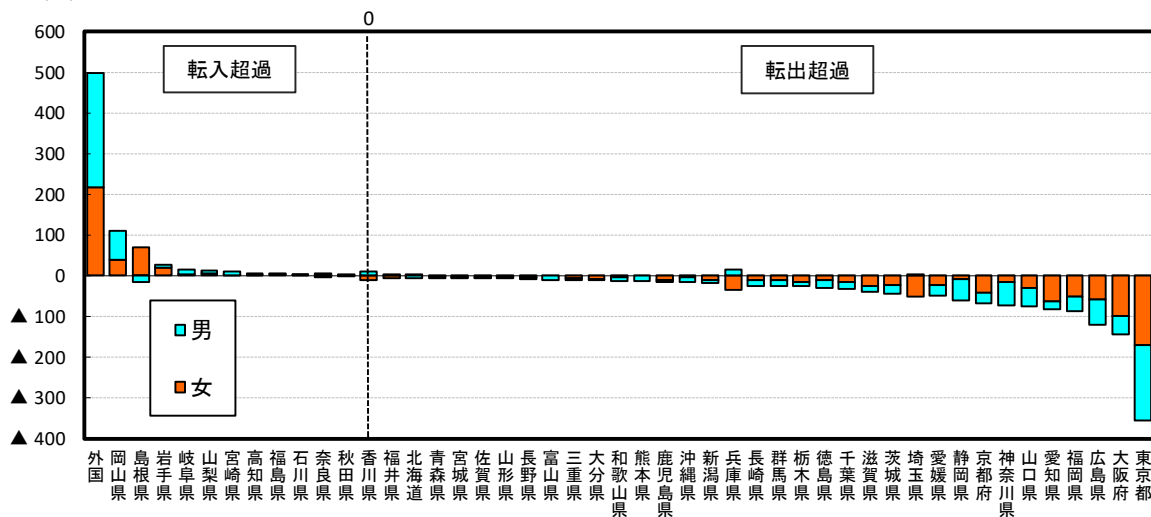
転入超過数は外国の499人、転出超過数は東京都の355人が最も多い。

転入超過数は、外国の499人（男性282人、女性217人）が最も多く、次いで岡山県の111人（男性71人、女性40人）、島根県の55人（男性15人、女性70人）であった。

転出超過数は、東京都の355人（男性185人、女性170人）が最も多く、次いで大阪府の145人（男性45人、女性100人）、広島県の120人（男性61人、女性59人）であった。

(図12、統計表第14表)

図12 都道府県別(外国を含む)転入・転出超過数(男女別)



(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態

60～64歳が最も増加し、20～24歳が最も減少

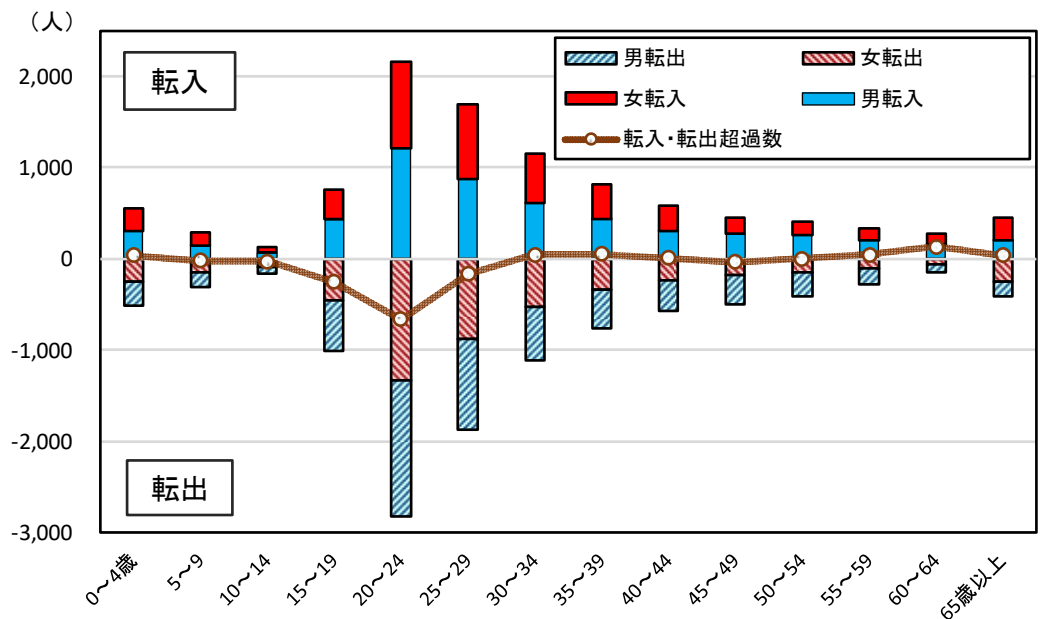
年齢5歳階級別にみると、県外転入者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,213人：男性の県外転入者総数に占める割合が21.9%、女性948人：女性の県外転入者総数に占める割合が20.9%）、次いで男女とも25～29歳（男性882人：同15.9%、女性817人：同18.0%）であった。

県外転出者は男女とも20～24歳が最も多く（男性1,486人：同25.4%、女性1,338人：同26.7%）、次いで男女とも25～29歳（男性982人：同16.8%、女性883人：同17.6%）であった。

県外転入転出により、60～64歳が最も増加（131人：男性86人、女性45人）、20～24歳が最も減少（663人：男性273人、女性390人）し、年間県外移動者総数をみると、20～34歳が全体の51.7%を占めている。

(図13、統計表第7表、第15表)

図13 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数



Ⅲ 市町村別推計人口

1 市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の186,045人、最も少ないのは江府町の2,507人

市郡別にみると、市部の推計人口は409,539人（男性196,232人、女性213,307人：県人口に占める割合75.3%）で、郡部の推計人口は134,076人（男性63,794人、女性70,282人：同24.7%）であった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の186,045人（男性90,220人、女性95,825人：同34.2%）で、次いで米子市の146,148人（男性69,247人、女性76,901人：同26.9%）であった。

郡部で推計人口が最も多いのは、湯梨浜町の15,880人（男性7,570人、女性8,310人：同2.9%）で、次いで琴浦町の15,763人（男性7,468人、女性8,295人：同2.9%）であった。

また、最も少ないのは、江府町の2,507人（男性1,165人、女性1,342人：同0.5%）で、次いで若桜町の2,661人（男性1,267人、女性1,394人：同0.5%）であった。

過去5年間（平成30年～令和4年）の市町村別の推計人口の推移をみると、日吉津村を除く18市町で減少している。

日吉津村は平成28年以降増加が続き、令和元年は減少したものの、令和2年から増加に転じた。

（表4、統計表第8表、第8-1表）

表4 市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去5年間の推移）

（単位：人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	419,547	417,003	415,007	412,220	409,539	50,728	225,814	125,124	172,615	2.37
郡計	142,230	140,340	138,400	136,342	134,076	15,195	65,694	53,031	49,033	2.73
東部地区	227,843	225,945	224,492	222,529	220,709	26,410	120,847	69,870	90,814	2.43
中部地区	101,369	100,367	99,193	97,932	96,631	11,967	49,376	34,758	37,018	2.61
西部地区	232,565	231,031	229,722	228,101	226,275	27,546	121,285	73,527	93,816	2.41
鳥取市	190,558	189,364	188,465	187,238	186,045	22,811	103,853	55,808	78,039	2.38
米子市	148,298	147,715	147,317	146,753	146,148	18,720	81,136	42,577	63,134	2.31
倉吉市	47,475	46,991	46,485	45,828	45,227	5,418	23,388	15,980	18,251	2.48
境港市	33,216	32,933	32,740	32,401	32,119	3,779	17,437	10,759	13,191	2.43
岩美町	11,144	10,967	10,799	10,655	10,531	1,134	5,298	4,094	3,955	2.66
若桜町	3,055	2,941	2,864	2,767	2,661	170	1,130	1,360	1,139	2.34
智頭町	6,725	6,568	6,427	6,251	6,116	560	2,757	2,799	2,365	2.59
八頭町	16,361	16,105	15,937	15,618	15,356	1,735	7,809	5,809	5,316	2.89
三朝町	6,241	6,156	6,060	5,915	5,777	610	2,766	2,387	2,174	2.66
湯梨浜町	16,310	16,204	16,055	15,945	15,880	2,273	8,349	5,208	5,798	2.74
琴浦町	16,793	16,573	16,365	16,066	15,763	1,879	7,839	6,043	5,731	2.75
北栄町	14,550	14,443	14,228	14,178	13,984	1,787	7,034	5,140	5,064	2.76
日吉津村	3,573	3,497	3,501	3,532	3,543	520	1,965	1,029	1,283	2.76
大山町	15,810	15,642	15,370	15,110	14,774	1,574	7,036	6,164	5,175	2.85
南部町	10,615	10,479	10,323	10,208	10,066	1,106	5,058	3,898	3,531	2.85
伯耆町	10,809	10,763	10,696	10,590	10,354	1,207	4,871	4,253	3,663	2.83
日南町	4,388	4,288	4,196	4,090	3,974	264	1,557	2,151	1,723	2.31
日野町	3,066	3,002	2,907	2,822	2,790	186	1,174	1,430	1,183	2.36
江府町	2,790	2,712	2,672	2,595	2,507	190	1,051	1,266	933	2.69

2 年齢3区分別人口

(1) 年少人口

前年と比べると、年少人口は湯梨浜町、日吉津村及び日野町で増加、年少人口割合は5町村で上昇

年少人口は鳥取市の22,811人が最も多く、次いで米子市の18,720人であった。前年と比べると、湯梨浜町、日吉津村及び日野町で増加し、その他の市町で減少した。

年少人口割合は日吉津村の14.8%が最も高く、次いで湯梨浜町の14.4%であった。前年と比べると、湯梨浜町、北栄町、日吉津村、日野町及び江府町で上昇し、岩美町で同水準、鳥取市など13市町で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(2) 生産年齢人口

前年と比べると、すべての市町村で、生産年齢人口は減少、生産年齢人口割合は低下

生産年齢人口は鳥取市の103,853人が最も多く、次いで米子市の81,136人であった。前年と比べると、すべての市町村で減少した。

生産年齢人口割合は米子市の57.0%が最も高く、次いで鳥取市の56.9%であった。前年と比べると、すべての市町村で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(3) 老年人口

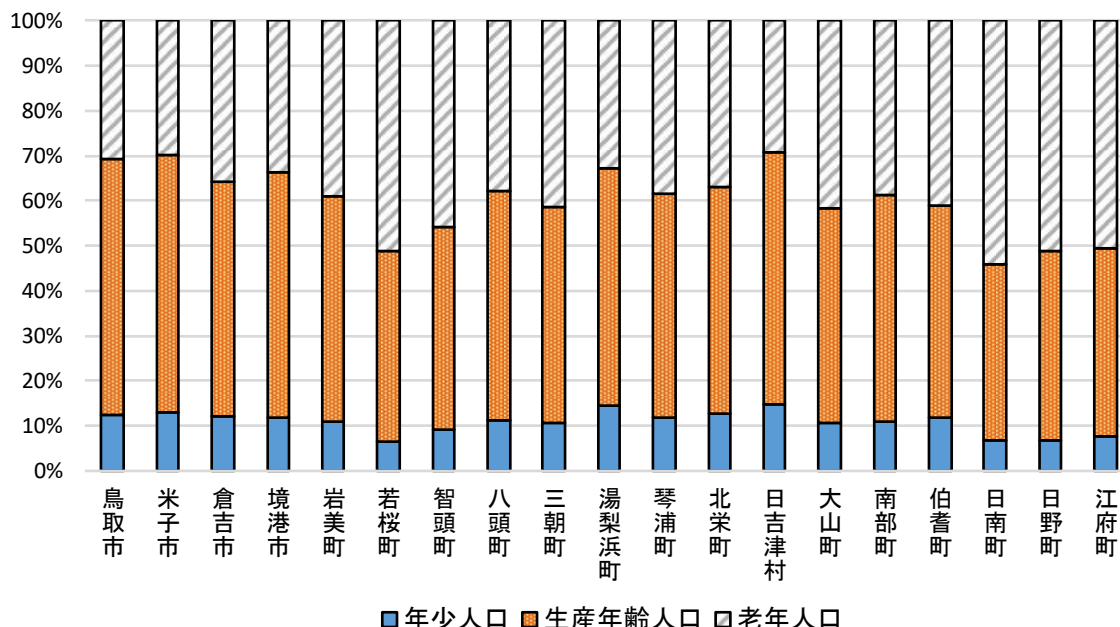
前年と比べると、老年人口は9市町村で増加、老年人口割合は日野町を除くすべての市町村で上昇

老年人口は鳥取市の55,808人が最も多く、次いで米子市の42,577人であった。前年と比べると、鳥取市など9市町村で増加し、倉吉市など10市町で減少した。

老年人口割合は日南町の54.2%が最も高く、次いで日野町の51.3%であった。前年と比べると、日野町を除くすべての市町村で上昇した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

図14 市町村別年齢3区分別人口割合



IV 市町村人口動態

1 人口増減

人口増減は日吉津村を除くすべての市町で減少

令和4年（令和3年10月～令和4年9月）の1年間の市町村別の人口増減をみると、増加したのは日吉津村の11人（自然減少13人、社会増加24人）で、他の18市町は減少し、最も減少したのは鳥取市の1,193人（自然減少1,064人、社会減少129人）、次いで米子市の605人（自然減少696人、社会増加91人）、倉吉市の601人（自然減少442人、社会減少159人）、大山町の336人（自然減少231人、社会減少105人）であった。

また、増減率をみると、増加したのは日吉津村の0.31%で、他の18市町は減少し、最も減少したのは若桜町の3.83%、次いで江府町の3.39%、日南町の2.84%、三朝町の2.33%であった。（表5、統計表第8表）

表5 市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	3,736	7,891	-4,155	15,643	16,435	-792	-4,947
鳥取市	1,285	2,349	-1,064	4,600	4,729	-129	-1,193
米子市	1,172	1,868	-696	4,910	4,819	91	-605
倉吉市	301	743	-442	1,290	1,449	-159	-601
境港市	201	453	-252	1,266	1,296	-30	-282
岩美町	76	190	-114	301	311	-10	-124
若桜町	7	65	-58	41	89	-48	-106
智頭町	19	121	-102	197	230	-33	-135
八頭町	100	260	-160	329	431	-102	-262
三朝町	20	125	-105	108	141	-33	-138
湯梨浜町	134	292	-158	569	476	93	-65
琴浦町	95	271	-176	388	515	-127	-303
北栄町	92	222	-130	345	409	-64	-194
日吉津村	28	41	-13	171	147	24	11
大山町	64	295	-231	375	480	-105	-336
南部町	45	160	-115	294	321	-27	-142
伯耆町	55	200	-145	228	319	-91	-236
日南町	17	103	-86	76	106	-30	-116
日野町	12	64	-52	116	96	20	-32
江府町	13	69	-56	39	71	-32	-88

2 自然動態

(1) 市町村別自然動態

自然増減はすべての市町村で減少

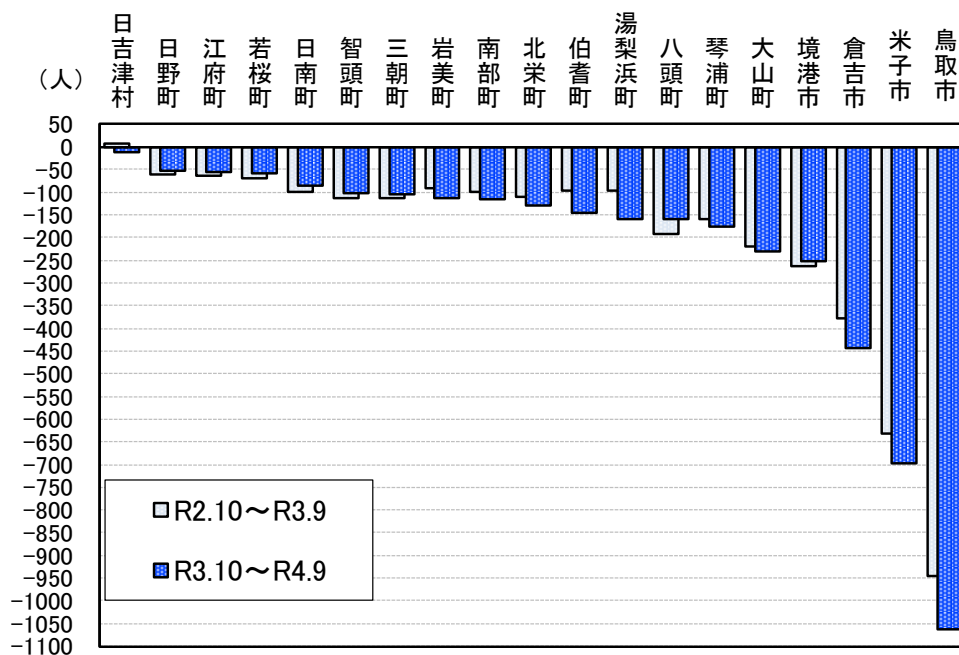
自然増減を市町村別にみると、すべての市町村で減少した。

最も多く減少したのは鳥取市の1,064人（出生数1,285人、死亡数2,349人）、次いで米子市の696人（出生数1,172人、死亡数1,868人）であった。

自然増減率（対1,000人比）をみると、すべての市町村で減少し、最も減少したのは江府町の21.58%、次いで日南町の21.03%であった。

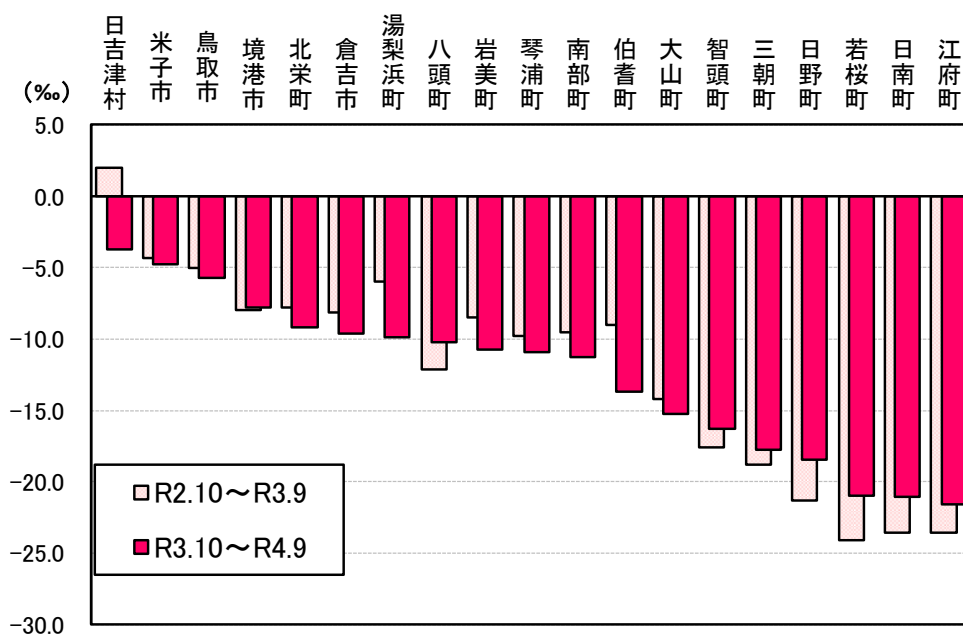
（図15-1、図15-2、統計表第11表）

図15-1 市町村別自然増減数



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

図15-2 市町村別自然増減率



※各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

出生数は令和4年9月の鳥取市の131人、死亡数は令和4年1月の鳥取市の239人が最も多い。

月別にみると、出生数は令和4年9月の鳥取市の131人（総出生数に占める割合3.5%）が最も多く、次いで令和4年4月の鳥取市の122人（同3.3%）、令和4年8月の鳥取市の121人（同3.2%）であった。

死亡数は令和4年1月の鳥取市の239人（総死亡数に占める割合3.0%）が最も多く、次いで令和3年12月の鳥取市の210人（同2.7%）、令和3年11月の鳥取市の203人（同2.6%）であった。

（表6）

（3）男女別自然動態

男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最も多かった。

市町村別の男女別をみると、男性の出生数は鳥取市の658人が最も多く、次いで米子市の624人、倉吉市の162人、境港市の110人であった。死亡数は鳥取市の1,157人が最も多く、次いで米子市の908人、倉吉市の347人、境港市の227人であった。

女性の出生数は鳥取市の627人が最も多く、次いで米子市の548人、倉吉市の139人、境港市の91人であった。死亡数は鳥取市の1,192人が最も多く、次いで米子市の960人、倉吉市の396人、境港市の226人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では若桜町の4人、女性では若桜町の3人、死亡数は、男性では日吉津村の23人、女性では日吉津村の18人であった。

（表6、統計表第11表）

表6 月別男女別自然動態 -R3年10月～R4年9月-

（単位：人）

		計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
県計	出生数	男	1,939	148	161	157	141	146	159	150	161	183	166	182	185
		女	1,797	140	171	166	130	137	136	151	163	155	126	164	158
		総数	3,736	288	332	323	271	283	295	301	324	338	292	346	343
	死亡数	男	3,825	311	316	344	354	328	359	301	314	276	289	338	295
		女	4,066	313	387	330	412	376	388	321	332	284	290	307	326
		総数	7,891	624	703	674	766	704	747	622	646	560	579	645	621
鳥取市	出生数	男	658	49	63	44	41	46	53	55	54	60	52	64	77
		女	627	58	53	62	36	49	48	67	60	46	37	57	54
		総数	1,285	107	116	106	77	95	101	122	114	106	89	121	131
	死亡数	男	1,157	99	93	120	111	103	104	86	90	82	84	87	98
		女	1,192	100	110	90	128	98	95	93	95	93	99	107	84
		総数	2,349	199	203	210	239	201	199	179	185	175	183	194	182
米子市	出生数	男	624	47	46	63	46	43	52	43	45	63	54	63	59
		女	548	40	57	46	54	45	35	37	44	54	36	51	49
		総数	1,172	87	103	109	100	88	87	80	89	117	90	114	108
	死亡数	男	908	68	82	74	88	78	71	74	84	72	62	83	72
		女	960	69	88	74	99	94	103	76	84	63	61	59	90
		総数	1,868	137	170	148	187	172	174	150	168	135	123	142	162
倉吉市	出生数	男	162	17	15	13	13	14	7	10	18	19	11	10	15
		女	139	9	10	8	13	9	12	10	10	14	10	23	11
		総数	301	26	25	21	26	23	19	20	28	33	21	33	26
	死亡数	男	347	28	32	30	34	22	31	26	26	30	36	32	20
		女	396	21	52	40	42	34	36	29	25	27	24	32	34
		総数	743	49	84	70	76	56	67	55	51	57	60	64	54
境港市	出生数	男	110	6	9	11	5	12	10	10	10	8	10	13	6
		女	91	10	7	7	1	3	8	9	9	8	10	5	14
		総数	201	16	16	18	6	15	18	19	19	16	20	18	20
	死亡数	男	227	18	19	17	25	24	25	12	18	11	11	28	19
		女	226	22	20	16	25	21	21	13	28	12	18	17	13
		総数	453	40	39	33	50	45	46	25	46	23	29	45	32

3 社会動態

(1) 市町村別社会動態

社会増減は米子市、湯梨浜町、日吉津村及び日野町で増加し、その他の市町で減少

社会増減を市町村別にみると、米子市、湯梨浜町、日吉津村及び日野町で増加し、その他の市町で減少した。

増加したのは湯梨浜町の93人（男性45人、女性48人）が最も増加し、次いで米子市の91人（男性34人、女性57人）であった。減少したのは倉吉市の159人（男性74人、女性85人）が最も減少し、次いで鳥取市の129人（男性48人、女性81人）であった。

社会増減率（対1,000人比）をみると、最も増加したのは日野町の7.09%で、次いで日吉津村の6.80%、湯梨浜町の5.83%、米子市の0.62%、その他の市町は減少し、最も減少したのは若桜町の17.35%、次いで江府町の12.33%であった。

（図16-1、図16-2、表7、統計表第12表、第15表）

図16-1 市町村別社会増減数

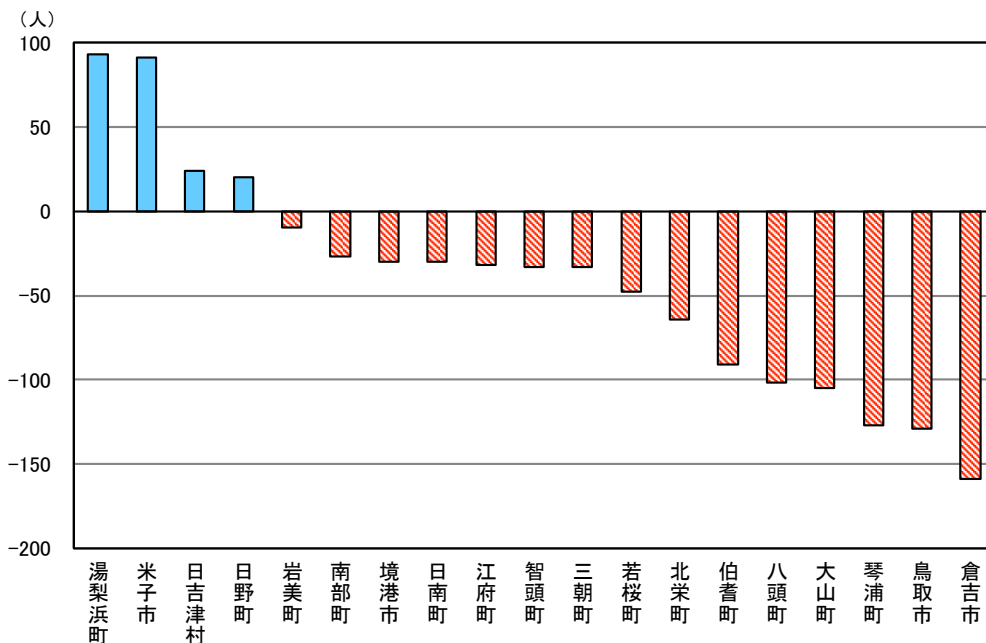


図16-2 市町村別社会増減率

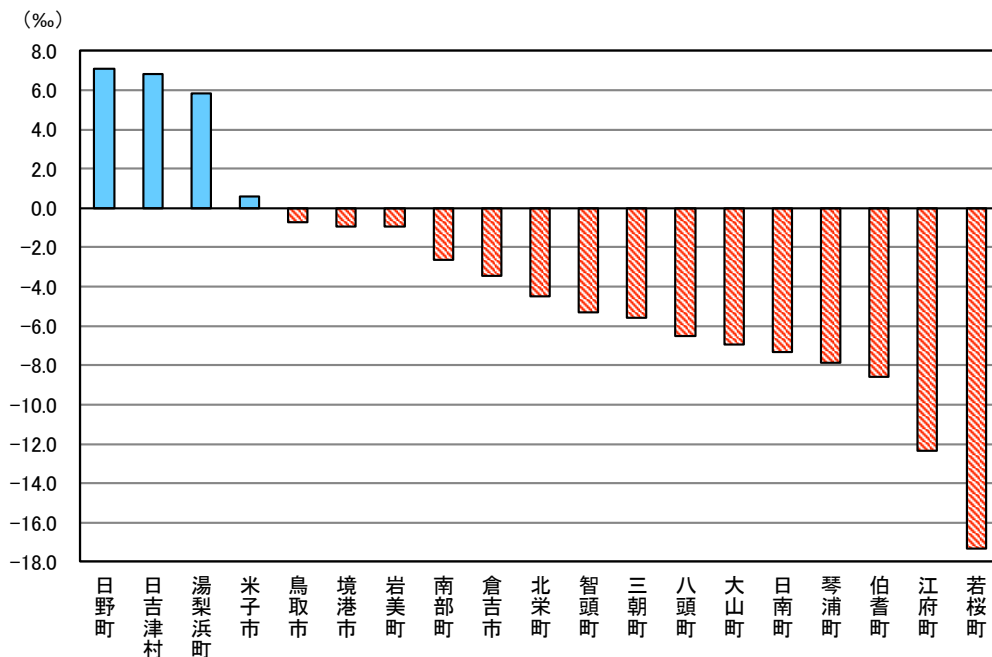


表7 市町村別社会動態

(単位：人)

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	10,060	10,852	-792	5,583	5,583	0	-792
東部地区	3,821	4,126	-305	1,647	1,664	-17	-322
中部地区	1,306	1,509	-203	1,394	1,481	-87	-290
西部地区	4,933	5,217	-284	2,542	2,438	104	-180
鳥取市	3,377	3,599	-222	1,223	1,130	93	-129
米子市	3,387	3,570	-183	1,523	1,249	274	91
倉吉市	664	739	-75	626	710	-84	-159
境港市	903	966	-63	363	330	33	-30
岩美町	147	153	-6	154	158	-4	-10
若桜町	27	40	-13	14	49	-35	-48
智頭町	140	137	3	57	93	-36	-33
八頭町	130	197	-67	199	234	-35	-102
三朝町	70	69	1	38	72	-34	-33
湯梨浜町	174	213	-39	395	263	132	93
琴浦町	261	276	-15	127	239	-112	-127
北栄町	137	212	-75	208	197	11	-64
日吉津村	71	74	-3	100	73	27	24
大山町	218	239	-21	157	241	-84	-105
南部町	133	132	1	161	189	-28	-27
伯耆町	104	132	-28	124	187	-63	-91
日南町	39	42	-3	37	64	-27	-30
日野町	57	41	16	59	55	4	20
江府町	21	21	0	18	50	-32	-32

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(－)の場合は、転出超過を示す。

注2) 地区別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地区内市町村間の移動者を含む。

(2) 県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市への409人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への409人(男性230人、女性179人)が最も多く、次いで米子市から鳥取市への353人(男性197人、女性156人)であった。

県内移動での転入超過は、米子市の274人(男性124人、女性150人)が最も多く、次いで湯梨浜町の132人(男性51人、女性81人)であった。

転出超過は、琴浦町の112人(男性41人、女性71人)が最も多く、次いで倉吉市の84人(男性34人、女性50人)及び大山町の84人(男性31人、女性53人)であった。

また、県内移動を地域区別にみると、東部から西部への529人(男性305人、女性224人)が最も多く、次いで西部から東部への482人(男性269人、女性213人)、中部から東部への365人(男性188人、女性177人)であった。

(図17、統計表第13表)

図17 地域別社会動態(R3年10月～R4年9月)



注) 地区間移動数は、地区内市町村間の移動者を含まない。

(3) 県外転入・県外転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への648人、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への560人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への648人(男性312人、女性336人)で、次いで外国から鳥取市への436人(男性217人、女性219人)であった。

また、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への560人(男性300人、女性260人)、次いで鳥取市から大阪府への422人(男性207人、女性215人)であった。

県外転入・県外転出での転入超過は、日野町の16人(男性11人、女性5人)が最も多く、次いで智頭町の3人(男性7人、女性-4人)であった。

転出超過は、鳥取市の222人（男性72人、女性150人）が最も多く、次いで米子市183人（男性90人、女性93人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では外国から552人（男性281人、女性271人）が最も多く、次いで兵庫県から498人（男性267人、女性231人）、中部では外国から255人（男性91人、女性164人）が最も多く、次いで岡山県から151人（男性98人、女性53人）、西部では島根県から893人（男性431人、女性462人）が最も多く、次いで外国から450人（男性223人、女性227人）であった。

県外転出者については東部では大阪府へ496人（男性247人、女性249人）が最も多く、次いで兵庫県へ462人（男性227人、女性235人）、中部では大阪府へ202人（男性94人、女性108人）が最も多く、次いで外国へ144人（男性59人、女性85人）、西部では島根県へ782人（男性424人、女性358人）が最も多く、次いで大阪府へ470人（男性243人、女性227人）であった。（表8、統計表第14表）

表8 都道府県別県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
	総数	鳥取市	米子市	琴浦町	その他	総数	鳥取市	米子市	境港市	その他
外国	1,257	436	250	130	441	758	271	136	71	280
島根県	1,207	648	233	164	162	1,152	560	252	126	214
大阪府	1,023	402	276	70	275	1,168	422	342	98	306
岡山県	919	320	319	103	177	808	291	266	62	189
兵庫県	897	429	226	70	172	916	402	243	53	218
広島県	694	288	225	61	120	814	302	298	56	158
東京都	601	212	194	53	142	956	363	295	70	228

(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者、県外転出者とも20～24歳が最も多い。

【鳥取市】

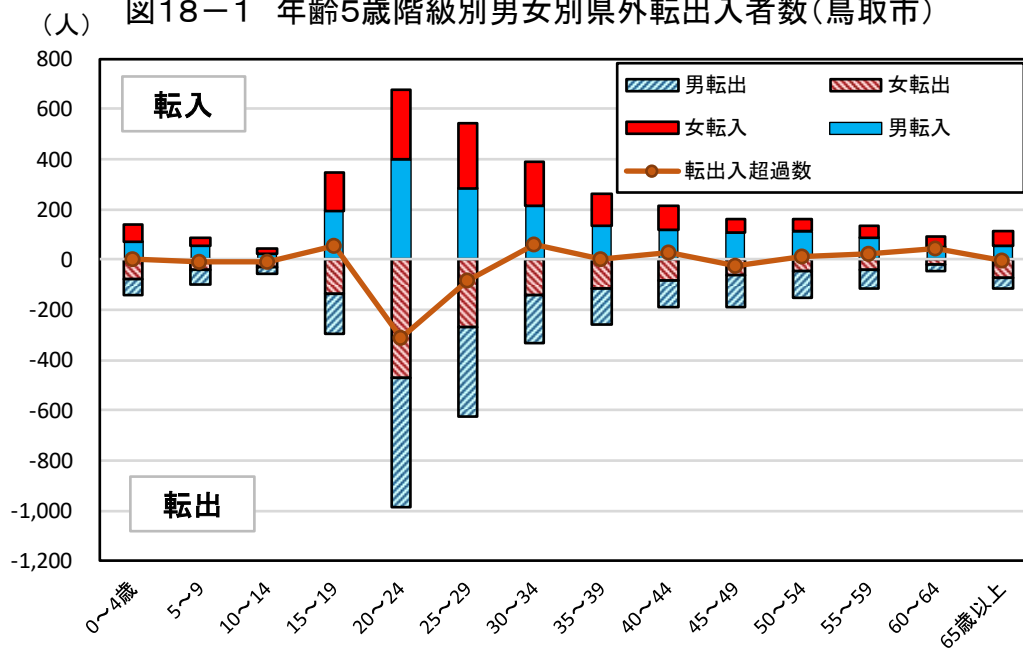
県外転入者は、20～24歳の676人（男性399人、女性277人：県全体の県外転入者総数に占める割合6.7%）が最も多く、次いで25～29歳の543人（男性285人、女性258人：同5.4%）であった。

県外転出者は、20～24歳の988人（男性517人、女性471人：県全体の県外転出者総数に占める割合9.1%）が最も多く、次いで25～29歳の627人（男性360人、女性267人：同5.8%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、30～34歳の59人（男性25人、女性34人）が最も多く、次いで15～19歳の54人（男性34人、女性20人）であった。

転出超過数は、20～24歳の312人（男性118人、女性194人）が最も多く、次いで25～29歳の84人（男性75人、女性9人）であった。（図18-1、統計表第15表）

図18-1 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(鳥取市)



【米子市】

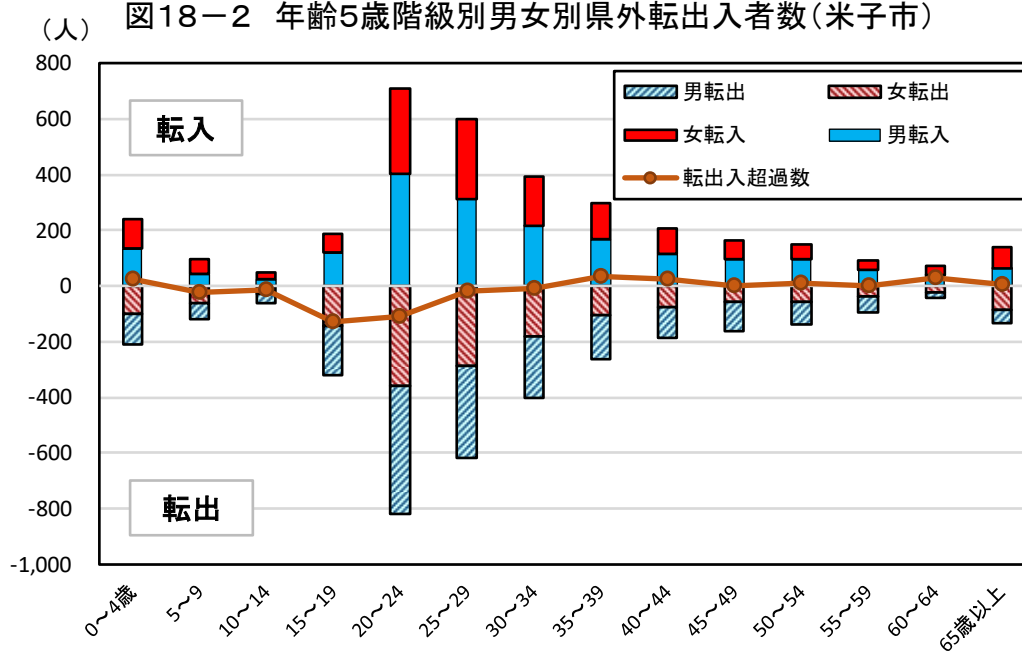
県外転入者は、20~24歳の707人(男性405人、女性302人:同7.0%)が最も多く、次いで25~29歳の598人(男性312人、女性286人:同5.9%)であった。

県外転出者は、20~24歳の817人(男性458人、女性359人:同7.5%)が最も多く、次いで25~29歳の616人(男性329人、女性287人:同5.7%)であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、35~39歳の34人(男性9人、女性25人)が最も多く、次いで60~64歳の30人(男性18人、女性12人)であった。

転出超過数は、15~19歳の131人(男性59人、女性72人)が最も多く、次いで20~24歳の110人(男性53人、女性57人)であった。(図18-2、統計表第15表)

図18-2 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数(米子市)



【倉吉市】

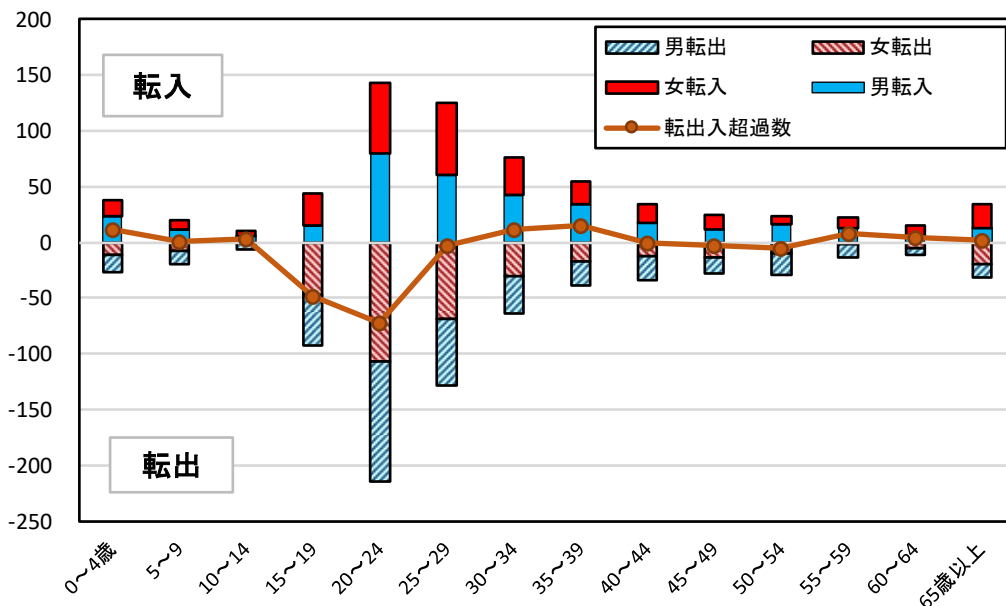
県外転入者は、20～24歳の143人（男性80人、女性63人：同1.4%）が最も多く、次いで25～29歳の125人（男性60人、女性65人：同1.2%）であった。

県外転出者は、20～24歳の215人（男性108人、女性107人：同2.0%）が最も多く、次いで25～29歳の128人（男性60人、女性68人：同1.2%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、35～39歳の15人（男性12人、女性3人）が最も多く、次いで30～34歳の12人（男性8人、女性4人）であった。

転出超過数は、20～24歳の72人（男性28人、女性44人）が最も多く、次いで15～19歳の48人（男性30人、女性18人）であった。（図18-3、統計表第15表）

（人） 図18-3 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数（倉吉市）



【境港市】

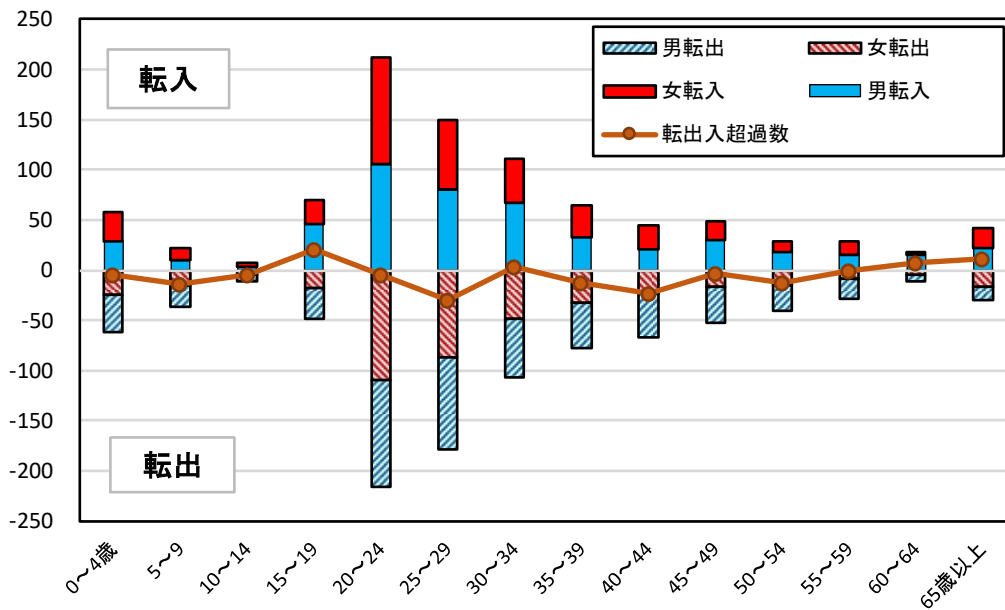
県外転入者は、20～24歳の212人（男性105人、女性107人：同2.1%）が最も多く、次いで25～29歳の149人（男性80人、女性69人：同1.5%）であった。

県外転出者は、20～24歳の216人（男性107人、女性109人：同2.0%）が最も多く、次いで25～29歳の179人（男性92人、女性87人：同1.6%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、15～19歳の21人（男性15人、女性6人）が最も多く、次いで60～64歳の7人（男性9人、女性-2人）及び65～69歳の7人（男性3人、女性4人）であった。

転出超過数は、25～29歳の30人（男性12人、女性18人）が最も多く、次いで40～44歳の23人（男性23人）であった。（図18-4、統計表第15表）

(人) 图18-4 年龄5岁阶段别男女别县外转出入者数(境港市)



<参考> 外国人（国籍不詳を含む）の推計人口

1 推計人口と世帯数

- ・令和4年10月1日現在の推計人口（国籍不詳5,118人を含む。以下同じ。）は、9,716人で、前年に比べ486人増加
- ・男女別人口は、男性4,255人、女性5,461人で、人口性比は77.9（表9、P.3表1、統計表第1表）

2 年齢別3区分別人口（年齢不詳を含まない）

- ・年少人口は204人、生産年齢人口は4,127人、老年人口は426人
- ・年少人口割合は4.3%、生産年齢人口割合は86.8%、老年人口割合は9.0%
- ・年齢5歳階級別人口は、男女とも20～24歳の881人（男性394人、女性487人）が最も多く、次いで男女とも25～29歳の805人（男性351人、女性454人）が多い（表9、P.6表2、表3）

3 市町村別推計人口

- ・市町村別の推計人口は、米子市の4,115人（男性1,750人、女性2,365人）が最も多く、次いで鳥取市の3,395人（男性1,695人、女性1,700人）（表9）

表9 市町村別推計人口、年齢3区分別人口(外国人)

(単位:人、%)

区分	推計人口			年齢3区分別人口			年齢3区分別人口割合(%)		
	総数	男	女	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
県計	9,716	4,255	5,461	204	4,127	426	4.3	86.8	9.0
鳥取市	3,395	1,695	1,700	77	1,319	117	5.1	87.2	7.7
米子市	4,115	1,750	2,365	81	1,164	178	5.7	81.8	12.5
倉吉市	508	221	287	11	239	31	3.9	85.1	11.0
境港市	587	174	413	8	443	34	1.6	91.3	7.0
岩美町	89	47	42	2	81	1	2.4	96.4	1.2
若桜町	28	5	23	0	28	0	0.0	100.0	0.0
智頭町	59	29	30	0	58	1	0.0	98.3	1.7
八頭町	71	12	59	3	66	2	4.2	93.0	2.8
三朝町	65	35	30	6	53	2	9.8	86.9	3.3
湯梨浜町	94	27	67	2	79	4	2.4	92.9	4.7
琴浦町	239	88	151	6	214	19	2.5	89.5	7.9
北栄町	102	28	74	6	89	4	6.1	89.9	4.0
日吉津村	53	16	37	0	22	12	0.0	64.7	35.3
大山町	116	38	78	0	103	13	0.0	88.8	11.2
南部町	92	51	41	0	88	1	0.0	98.9	1.1
伯耆町	56	22	34	1	37	5	2.3	86.0	11.6
日南町	20	10	10	0	19	1	0.0	95.0	5.0
日野町	17	3	14	1	15	1	5.9	88.2	5.9
江府町	10	4	6	0	10	0	0.0	100.0	0.0

注) 推計人口に年齢不詳は含まれるが、年齢3区分に年齢不詳は含まれない。

4 自然動態

- ・出生数は3人（男性3人）
- ・死亡数は17人（男性10人、女性7人）（表10）

表10 自然動態(外国人)

(単位:人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	3	3	0	17	10	7
10月	0	0	0	0	0	0
11月	1	1	0	4	2	2
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	1	0	1
2月	0	0	0	2	1	1
3月	1	1	0	2	2	0
4月	0	0	0	1	0	1
5月	0	0	0	1	1	0
6月	0	0	0	1	1	0
7月	0	0	0	0	0	0
8月	1	1	0	2	1	1
9月	0	0	0	3	2	1

5 社会動態

(1) 県内移動

- ・県内移動者数は96人（男性30人、女性66人）
- ・転入が最も多いのは倉吉市の16人（男性1人、女性15人）
- ・転入超過数は、岩美町の10人（男性3人、女性7人）及び湯梨浜町の10人（女性10人）が最も多く、転出超過数は、琴浦町の27人（男性-1人、女性28人）が最も多い。

(2) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は1,643人（男性794人、女性849人）で、県外転出者数は1,143人（男性505人、女性638人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の552人（男性281人、女性271人）で、次いで米子市の337人（男性170人、女性167人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の358人（男性200人、女性158人）で、次いで米子市の214人（男性88人、女性126人）
- ・転入超過数は、鳥取市の194人（男性81人、女性113人）が最も多く、転出超過数は、日南町の4人（男性4人）が最も多い。（表11）

表11 市町村別社会動態(外国人)

(単位:人)

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	1,643	794	849	1,143	505	638	500	96	30	66	96	30	66	0	500
東部地区	654	338	316	429	221	208	225	28	10	18	13	4	9	15	240
中部地区	316	136	180	220	86	134	96	34	4	30	46	8	38	-12	84
西部地区	673	320	353	494	198	296	179	34	16	18	37	18	19	-3	176
鳥取市	552	281	271	358	200	158	194	13	5	8	11	2	9	2	196
米子市	337	170	167	214	88	126	123	15	8	7	17	6	11	-2	121
倉吉市	90	44	46	68	39	29	22	16	1	15	9	3	6	7	29
境港市	187	70	117	145	52	93	42	10	6	4	10	6	4	0	42
岩美町	32	23	9	26	14	12	6	10	3	7	0	0	0	10	16
若桜町	4	1	3	7	0	7	-3	2	0	2	0	0	0	2	-1
智頭町	49	25	24	25	4	21	24	3	2	1	1	1	0	2	26
八頭町	17	8	9	13	3	10	4	0	0	0	1	1	0	-1	3
三朝町	16	10	6	16	3	13	0	0	0	0	1	1	0	-1	-1
湯梨浜町	25	11	14	24	4	20	1	12	2	10	2	2	0	10	11
琴浦町	157	59	98	86	30	56	71	3	1	2	30	0	30	-27	44
北栄町	28	12	16	26	10	16	2	3	0	3	4	2	2	-1	1
日吉津村	6	2	4	7	1	6	-1	5	1	4	0	0	0	5	4
大山町	86	42	44	76	39	37	10	2	1	1	8	6	2	-6	4
南部町	37	26	11	29	12	17	8	1	0	1	0	0	0	1	9
伯耆町	5	3	2	5	0	5	0	0	0	0	1	0	1	-1	-1
日南町	3	2	1	7	6	1	-4	0	0	0	0	0	0	0	-4
日野町	8	2	6	9	0	9	-1	1	0	1	0	0	0	1	0
江府町	4	3	1	2	0	2	2	0	0	0	1	0	1	-1	1

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(-)の場合は、転出超過を示す。

注2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。